

2023年3月9日 Vol.211

## 月面開発事業会社のIPO

寒い冬からいつの間にか春爛漫の季節を迎え、株式市場にも心地よい春風が吹き始めているようです。TOPIXが高値更新まで2%余りとなり、株式相場全体に明るいムードが漂う中で個別銘柄もNISA枠拡大やゆうちょ銀行の売り出しなどで個人投資家の株式投資への関心も高まりつつあるものと推察されます。

こうした中で3月のIPO市場には22日のSHINKO(7120・S)から31日のエコム(6225・名証メイン)、Fusic(5256・G)まで16銘柄が一気に登場して参ります。1月のテクノロジーズ(5248・G)やプライム・ストラテジー(5250・S)が初値こそ公開価格に対して大きく上昇して始まりましたがその後はやや頭重い展開とはなっています。多くのIPO銘柄が上場後の調整パターンを描いており、今後のIR活動の中でリカバリーしていく展開を期待したいと思います。

IPO市場には時に、驚くような企業が出てきますが、直近の話題で驚くのは月面開発事業を行うispace(9348)が4月12日にグロース市場にIPOすることになった点です。同社は2010年に設立された月への物資輸送をはじめとした月面開発事業を展開するベンチャー企業。昨晚見られた月は満月のようでしたが、既に同社はこの地球のお隣とも言うべき月着陸に向け準備を進めてきたとのこと。同社のHP上では3月7日現在で地球から約58万kmの地点にあるHAKUTO-Rミッション1のランダー(着陸船)が地球を周回しているとしています。この日本初、民間主導のランダーでの月面着陸を目指しているのが同社であり、このビッグイベントを前にしたIPOということになります。先日のH3ロケットの打ち上げ失敗は残念でしたが、人類の夢とも言うべき月開発、宇宙開発の第1歩となる民間企業となるのが同社となる訳ですから投資家の大きな関心呼びそうです。株主にはINCJ(旧産業革新機構)、日本政策投資銀行、VCファンドのほかTBSホールディングスなどが名前を連ねています。同社から発信されているメッセージは地球規模の枠を飛び越え、宇宙という世界での人類の生活を念頭に入れたものとなっています。スカパーJSATやNTT、NECのような通信インフラ系の宇宙関連やアドソル日進(3837)のような宇宙データ活用関連企業などとともに今後、株式市場では折に触れ注目される存在となるものと思われます。

同社ではIPO時に2469万9700株の公募増資を予定。その想定発行価格を244円としていますので、約60億円の資金調達となりますが様々な投資家の皆さんが同社のことを見守ることになります。ただ、これだけの開発プロジェクトとなるとスケールが大きく利益を生むまでにはかなり紆余曲折がありそうです。3月決算の同社は3Qまでの段階で売上8億2381万円、経常赤字97億1764万円を計上。まだ夢の部分が大きな事業とは言え、夢に賭ける投資家にとっては応援したくなる企業の登場に心躍るホットな話題に事欠かないIPO市場です。 (東京IPOコラムニスト 松尾範久)